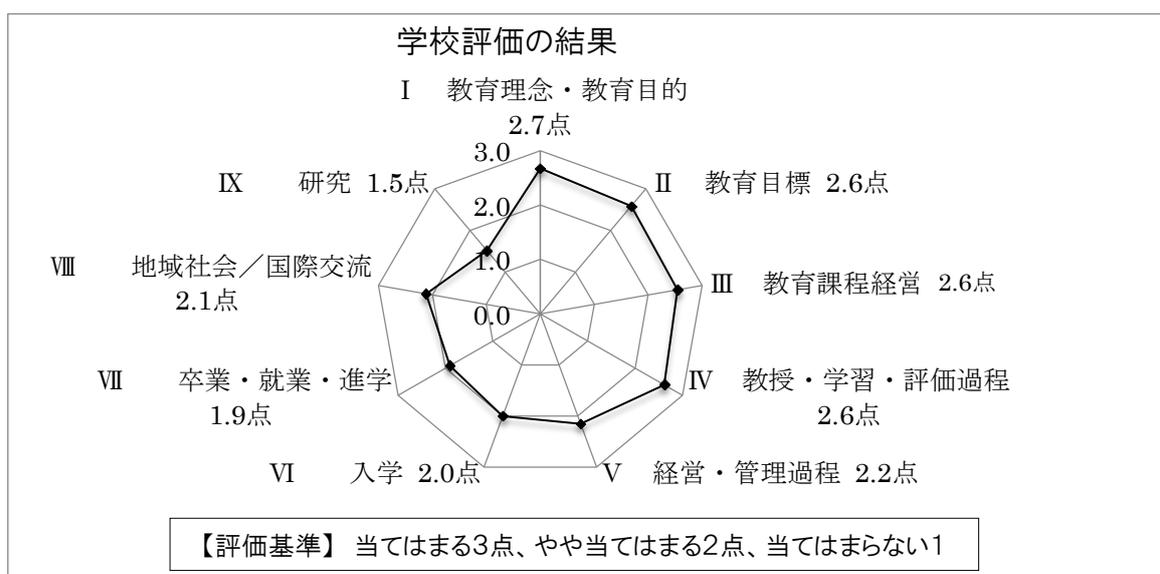


公立八鹿病院看護専門学校 学校評価結果の報告(公表)

本校は、「保健師助産師看護師法第 11 条」の看護師養成所の指定を受け、指定規則に則り、運営しています。「看護教育自己評価指針」に基づき、学校評価を平成 26 年から実施し、教育の質の向上をめざし、学校運営の改善に努めています。

下記は平成 29 年度の学校評価の結果です。この結果をもとに、平成 30 年度 31 年度に課題の洗い出し、改善を行い、令和 2 年 3 月に学校関係者評価委員会を開催いたしました。



評価項目	評価概要	評価結果
I 教育理念・教育目的 (11項目)	社会の変化に対応し人々のニーズを満たし、質の高い看護師の養成に努め、看護師養成所の責任を果たしているかを評価しました。	2.7
II 教育目標 (7項目)	教育理念・教育目的と一貫性があり、卒業時の到達目標を明確にして教育内容を精選しているのかを評価しました。	2.6
III 教育課程経営 (31項目)	学生に効果的かつ質の高い教育を実践するために、教育課程が適切に運営されているのかを評価しました。	2.6
IV 教授・学習・評価過程 (17項目)	授業内容が教育目標と一貫性があるか、また教育内容が妥当なものか学生による授業評価や教員の自己評価が授業の改善につながっているかを評価しました。	2.6
V 経営・管理過程 (36項目)	予算計画、事業計画が適切に執行され管理されているか。また、学生への支援が適切に行われているのかを評価しました。	2.2
VI 入学 (2項目)	教育理念・教育目的に基づいた学生の確保のため、入学選抜等が適切に運用されているのかを評価しました。	2.0
VII 卒業・就業・進学 (8項目)	卒業時の到達状況を把握と卒業後の活動状況の評価を教育に反映させることができているかを評価しました。	1.9
VIII 地域社会、国際交流 (10項目)	地域社会への貢献度及び国際交流について評価しました。	2.1
IX 研究 (3項目)	教員の研究的姿勢、活動の状況について評価しました。	1.5

課題への取り組み

学校評価の結果、評価項目 I 教育理念・教育目的、II 教育目標、III 教育課程経営、IV 教授・学習・評価過程は2.6点以上であることから教育課程経営等は妥当であると判断いたします。

しかし、V 経営、VI 入学、VII 卒業・就業・進学、VIII 地域社会、国際交流、IX 研究の項目の評価結果は低くなっています。

平成30年度及び平成31年度は、より良い教育を目指し、優先度の高い、以下の内容に取り組みました。

教育理念、教育目的・教育目標達成に向けたカリキュラムの運営

- 組織の体系化(役割・機能・権限の定義)
- 学生の年次毎の習熟段階の目標設定と指導体制の強化
- 学校安全の基盤づくり

学校関係者評価委員会

- 令和2年3月18日(水)、学校関係者評価委員会を開催いたしました。

- 評価委員

公益社団法人兵庫県看護協会 会長 成田康子氏

立命館大学 教授 長澤麻子氏

公立八鹿病院 看護部長 高階優子氏

卒業生代表 看護師 自谷麻美氏 看護師 寺西菜美氏

学校側出席者

学校長 濟 昭道 事務長 飯田正吉

教育課長 藤田泰代 主任 坂本真由美

主任 杉垣ひとみ 専任教員 和田美穂

専任教員 田中佳代子 専任教員 橋本みどり

- 評価委員からの提言は以下のとおりです。

- ・学校評価項目の精選と評価枠組みの明確化が必要である。
- ・実習病院との更なる連携協力の上で、卒業後の中長期的な教育課程評価が必要である。
- ・カリキュラム改正を踏まえた教授活動の改善、業務改善が必要である。
- ・学校運営について、社会への広報活動を充実させる必要がある。

- 学校関係者評価委員会を終えて今後の課題

- ・本校の看護師国家試験の合格率は97%以上(全国平均90%前後)を保っています。これらの客観的データを活用しながら、信憑性のある学校評価に取り組みます。
- ・本校は地域包括ケアの最前線を行く地域に設置された看護師養成所で、地域の方々に大切にされています。このような教育環境を活かした、教育活動を目指します。
- ・本校は母体病院が隣接しているという好条件があります。病院と連携し、卒業生の中長期的な動向から、教育課程評価を充実させます。
- ・学生の学校生活が最善となるように、さらに学校組織体制を整えて行きます。